アドレスの葉っぱたち

25年前、まだまだ小さな苗木だったアドレス。たくさんのお客様に支えられて、少しずつ枝を伸ばし、葉っぱを増やし、成長してきました。いつか大きな森になる日を夢見て・・・。

◆振り返る25年、展望する25年

制作部・宮本

アドレスの25年、それは私の仕事人生の3分の2であり、ちょうど娘の年齢に重なる。巷間「働き方」が問われているが、私は、3年ぐらい周期で家庭の事情に応じて勤務条件を変えてもらい、今日まで同じ会社で働き続けることができた。もちろんその大前提には、アドレスを使ってくださるお客様が年々増え、優秀な内外スタッフが定着し、売上が伸びていることがあった。

いろいろな企業から社史の仕事をお受けする。大企業や中堅企業の場合、「創業期」「挑戦期」「試練期」「躍進期」と10年区切りで章立てして、100年、50年を振り返るということがあるが、アドレスの25年は、前向きな社長の下、常に「挑戦期」「試練期」の繰り返しであったように思う。

これからの25年を展望してみる。仕事の中身、ツールの変化は激しく、音声認識、翻訳は機械に置き換わっていくだろう。

しかし、電源と操作する人がいないと機械は動かない。

では、人を動かすものは何であろうか。

願わくは、この先も、しなやかに変化に対応しながら、熱い志を持つ人々が働いている（アドレス）であってほしい。

◆娘誕生と25周年と厄年と

制作部・亀村

今年は、何かと印象深い年になりそうです。1月の「仕事始め」の日に、長女が誕生しました。娘が0歳なら、私も、父としては0歳。娘の日々の成長からは学ぶことばかりで、寝かしつけるにしても、ご機嫌を取るにしても、昨日と同じこと、人と同じことをしていてはうまくいきません。「イクメン」にはまだまだ程遠い状況ですが、これからどんな経験が待っているのか、どんな学びがあるのか、とても楽しみです。

私は、講演やシンポジウム等の要約作業を担当することが多いのですが、要約は決められた文字数の中に、話者が言いたいことを的確に盛り込まなければなりません。しかし、人によって「ここが重要だ」と思うポイントは違うでしょうから、答えは一つではありません。なので、子育てと同じような感覚を覚えながら、要約をしています。一度完成した要約文でも、次の日に再読すると、「もっとこう直した方が・・・」と思うこともしばしば。一筋縄ではいかない作業ですが、やりがいを感じる作業でもあります。

アドレス25年の歴史のうち、私はまだ2年半の社歴しかないのですが、実は今年が本厄の年に当たります。娘の誕生で厄年ムードもすっかり吹き飛んでしまっていますが、秋には同級生と共に伊勢神宮にお参りし、おはらいしようと計画中です。一説によると、「厄年」は「役年」とも書き、「寺社で役を務めるようになる年＝一人前になる年」という意味があるそうです。厄年はマイナスのイメージがつきまといがちですが、「役に立つ年」とプラスにとらえ、少しでも皆さまのお役に立てる存在でありたいと心に誓っています。

この文章を自宅で書いている間も、娘の「かまって攻撃」はやみません。「いつまでかまってくれるのかなあ」と一抹の不安を感じながらも、今日も娘の機嫌を取る新米父です。

◆アドレスのテープおこし

制作部マネージャー・石蔵

「『テープおこし』っていう仕事があるんだけど」

そう言って、このパソコンと文字の世界へ私を誘ってくれたのは、兵庫事務所の坪井さんでした（実は私と彼女とは高校の同級生です）。タイピングスピードだけは誰にも負けないと自負していた私は、入力なら任せてと、一も二もなくこの世界に飛び込みました。

そして始めた最初の「テープおこし」。録音された音声を一言一句聞き落とさずに書きおこしていくことこそがミッションと、フィラーを省くことすらせずに仕上げたデータを自信満々で提出したところ、返ってきた言葉は一言、「センスがない」。これが私の「アドレスのテープおこし」との出合いでした。

細大漏らさず聞いて理解するというのは基本のキ、その内容が正しく伝わるように書きおこしてこそ、私たちの仕事には価値があります。その深さに絡め取られて、はや25年です。

この間を振り返ると、一番私を育ててくれたのはお客様の声だったように思います。お褒めの言葉をモチベーションに精進することはもちろん、時に頂く厳しいご指摘からも、本当に多くのことを学ばせていただきました。その積み重ねで、「アドレスのテープおこし」は他社の追随を許さない品質を実現していると自負しています。

四半世紀を迎えた「アドレスのテープおこし」、これからもご愛顧ください。

◆変化と成長

業務部・小崎

約10年ぶりにアドレスに戻ってきました。

張り切って出勤してきた初日、車を停めるつもりでいた見覚えのある駐車場がそこにはなく、一気に不安が襲ってきました。

「前と違う。そうだ、10年もたっているんだから変わって当たり前だ」。

前日までの「10年前のことを思い出せるのか」という心配は「付いていけるのか・・・」に変わりました。予感は的中し、10年前から変化していることが多過ぎて、初めて見る光景が満載でした。

「テープおこし」と言っても、最近の音声はデータがほとんどで、机の上にはカセットテープを再生する機械などありません。パソコンで音を再生しながら、キーボードを操作する。初日はこの光景に感動すら覚えた私です。名前は変わらなくても、もう30年近く前、社会人1年生のときに出合った「テープおこし」の姿はもうありません。データの提供の仕方、納品の仕方も激変しました。これからもきっと変化し続けていく「テープおこし」とともに、自分も「成長」という変化をしていきたい。

営業部の一員だった10年前は、お客様の前に登場することの多かった私ですが、今は業務部の一員として、お客様からお預かりした音や資料の確認を主にさせていただいています。お客様に直接お会いしたり、お話ししたりする機会は減りましたが、これまで以上に社内の連携を大事にして、その連携が25年間アドレスを支え続けてくださったお客様と関わり続けていきたいと思っています。

◆通信インフラにささえられ

専務取締役 山内 光浩

アドレスが創立した25年前は、Windowsが世の中に出ていたものの、まだPCの標準のOSはMS-DOSでした。

真っ黒な画面に文字だけが表示されていて、PCでのデータの通信手段といえばパソコン通信（2006年に全てのサービス終了）で、電話回線とモデムを使い、PCにRS232Cという規格のコネクタで接続していました。通信速度は9600bpsとか14400bpsといった現在では考えられない遅さです。

しばらくすると、コンピュータ雑誌等では、世界中のPCがネットワークを通じて接続することができるというインターネットの記事も取り上げられるようになりました。通信サービス会社の会員となり、会員がその会社のホストコンピュータに接続することにより情報を共有、交換をするパソコン通信に対して、インターネットでは、世界中のコンピュータがネットワークで接続し、それぞれのコンピュータ同士で情報を交換することができるというのです。しかも、インターネットではパソコン通信のホストコンピュータのように、中心となるコンピュータがなく、特に管理者もいないらしい。

ある取引先の方から「うちもインターネットに加入しようと思うのだけれど、どこに申し込んで誰に使用料を払えばいいのでしょうか」と質問されて、お答えできなかったことを思い出します。

今では通信速度も1Gbpsと高速になり、皆さんが当たり前のようにインターネットを介して情報の交換を行っています。アドレスも通信技術の発達から多大な恩恵を受けてきました。この先まだまだ通信技術は発達し続けていくでしょう。さらに10年後、20年後がどうなっているか、非常に楽しみです。

◆明日から

DTI事業部・丸田

25年といえば、9,125日、219,000時間、13,140,000分、788,400,000秒、とんでもなく長い時間です。

自分が初めてアドレスに来たときは、社員数もわずかで、社屋も小さいものでした。それから22年がたち、社員も増え、社屋も大きくなり社内のシステムも大きく変わりました。

会社がこれだけ大きく変わってきた間に自分がどう変わったかと考えてみたのですが、残念ながら自分自身はあまり変わったと自覚はできるところはありませんでした。

22年というと新生児が大学卒業するほどの長い期間です。これではいかんと思ったので自分を変える努力をしてみようと思います。

とりあえず「明日から頑張る」

◆信頼を感じながら

営業部・松本

今年の3月に入社しました、営業部の松本です。趣味は仕事帰りの一人映画と一人ラーメンでしたが、最近はラーメンが重く感じることも増えてきたお年頃です。

よろしくお願いします。

アドレス25周年の歴史の中でもフレッシュな立ち位置である私は、分からないことも多く迷惑をかけてしまうこともしばしばですが、とにかく今はできることを精一杯やるのみ！　と気合いを入れて頑張っています。

金沢、富山、東京といろいろな地域へお伺いさせていただくのは、とても刺激的なことです。顔を合わせてお話しすると距離がぐっと縮まるような気がしますし、皆さまと直接お話しできるのが営業の楽しさだなと実感しながら、日々を過ごしています。

まだまだ初めてお目にかかる方ばかりで少し緊張しますが、「ああ、アドレスさん！」と言っていただけると、ほっとすると同時に、お話ししているとアドレスが今まで培ってきた信頼をひしひしと感じて身が引き締まる思いです。信頼を裏切らないように、さらにアドレスを身近に感じていただけるように邁進したいと思います。これからもちょくちょく皆さまの元へ足を運びますので、温かく迎えてくださるとうれしいです。

◆1億と2000年前におこしてる

制作部・清水

新卒でアドレスに入社し、5年目になります。面接の際、「なぜうちを志望したのか」と聞かれ、「この仕事なら言葉そのものに向き合えると思ったからです」と答えました。今同じ質問をされても同じことを答えられるぐらい、これは仕事をする上でのモチベーションになっています。

ベテランに指摘された間違いを毎日聞き直す若手、文法の勉強会、要約文を読み合って吟味するグループ、漢字表記をすり合わせる会議、専門書の貸し借り、入力の速さ・正確さを競うコンテスト・・・こんな社内の光景を見るたびに、これほど話を言葉として残すために心を砕き、言葉と向き合っている会社はなかなかないのではないかという思いを強くします。この仕事を続けて、できることは増えてきました。それでも10年、25年、50年と続けていくことで、もっとできることが増えるような奥の深い仕事だと感じています。

仕事中、ふと思い描くものがあります。現在の考古学者が史料から歴史を読み取っているように、○万年後の考古学者が、アドレスがおこした言葉を解読し、当時お客様が話した内容、開いた会、創った文化に思いを馳せる姿。音だけでは残らなくても、文字になっていれば後世に受け継がれる可能性はぐっと高くなるかもしれない。

皆さまの記録が100年先も、100万年先も残りますように。そんな気持ちで25年目のアドレスで、5年目の私は言葉を記していきます。

◆憧れの数式

取締役営業部長　中山 務

世界中の言葉には、その社会の背景にある自然や文化が色濃く反映している。九鬼周造は、「いき」という日本語は武士道と仏教と遊郭という三つの文化の中で生まれた意識現象だと言う。アイヌ語では、人間の体のあちこちを細かく分けて、それぞれに名前を持っていると聞いたことがある。

数式やコンピュータのプログラムも言葉の一つだ。コンピュータはCPUが理解できる言葉で命令してあげない限り一歩も動けない。また、数式という言葉でしか正確に言い表せない事柄もあるようだ。数式を読んで、相対性理論や量子力学の世界を体感できる人たちがうらやましい。実は私も理系「のようなもの」なのだが。

言葉が発せられるとき、その一つ一つが背景と思いを担いでくる。それがコミュニケーションを難しくもし、しかし、だからこそ、会話を豊かなものにするのだと思う。この四半世紀に、アドレスにはおびただしい数の言葉と思いと世界がやってきた。そのどれだけを私たちが受け止められたのか、どれだけの思いを形を変えて送り出すことができたのか。これからも耳を傾けていきたい。

ADDRESS VOICE

No.45
2017.7.7

【創立 25 周年記念号】

株式会社アドレス　〒921-8147 金沢市大額 1-342-3　《TEL》076-298-8585 《URL》http://www.adrs.co.jp 《Email》office@adrs.co.jp

編集・発行人 制作部 清水

制作一筆箋 第4回

新生アドレスボイス

制作部・大野

皆さまの中に、20 年前にアドレスボイス第1号を受け取った、という方はいらっしゃるでしょうか。

第1号は、手書きのイラストと文字をワープロで組んだ、白黒印刷の広報紙でした。決して洗練されているとは言えない、手作り感満載の素朴なものです。でもそこからは、アドレスのテープおこしの良さを何とかお客様に届けたいという、当時の営業員の熱意が伝わってくるのです。

今、当時よりもずっと簡便で手軽なコミュニケーション手段がたくさんあります。では、私たち制作部がより密にお客様と関われているかというと、そうではないような気がしました。それが「もう一度アドレスボイスを作ろう。今度は、制作部の手で」と思った理由です。

現在のアドレスボイスは、制作部の若手が作っています。お客様とのコミュニケーション手段であることはもとより、私たちが日々どんなことに心を砕き、どんな想いで制作に携わっているか、今お客様に伝えたいことは何か、それを文字にして何度も推敲を重ねることで、「良きテープおこしとは何か」に思いを巡らせ、明日もっといいものをつくる糧にできればと思っています。

Bill's tweet #4

Who would choose to live in a desert?

制作部・スミス

I grew up mostly in Phoenix, Arizona, also known as the 'Valley of the Sun'. Phoenix is situated in the Sonoran Desert and experiences 295 days of sunshine per year.

A tradeoff of this fine weather is low humidity and blistering heat in summer with a record high temperature of 50°C! It is so dry in summer that a cold drink brought outside will remain dry without any condensation.

On the other hand, winters are very mild with the lowest average high temperatures being 12°C in December. This attracts retirees seeking to avoid the harsh winters further north.

Although winters are lovely, if you want to truly experience what living in Phoenix is like, I recommend visiting in late June. Bring your sandals and shorts and wonder, "Who would choose to live in a desert?"

［アドレス25年の歩み］

1993年　金沢市泉にて会社設立
1996年　英語テープおこしサービスを開始
1998年　アドレスボイス第1号 発行
1999年　立会録音サービスを商品化
2001年　資料挿入オプションの商品化
2003年　東京サテライトオフィス開設
2006年　オリジナル言語参照の本格商品化
　　プライバシーマーク取得
2009年　ミニッツライティングを商品化
　　ISO9001取得
2013年　初めてのネイティブスタッフを迎え
　　ミニッツ・要約の英語対応本格化
2014年　ロゴマーク刷新とアドレスボイス復刊

アドレスは今から25年前、古都金沢で生まれました。創業時のメンバーは3名、社屋は元喫茶店のちょっぴりメルヘンな木造建物で、固有名詞や専門用語の不明は1単語幾らで調べるサービスを利用していました。

それから四半世紀、テープおこしを取り巻く環境は大きく変化しています。パソコンの高性能化・大容量化に始まり、インターネットの普及、音源のデジタル化、そして今やそのパソコンさえ、クラウドとスマートフォンに置き換わろうとしています。そうした技術的な変化に伴って、求められる記録の形態や性質も、変わりつつあるように感じます。

アドレスも、たくさんのお客様の要望を一つ一つトレースしながら、新しいサービスを展開することはもちろん、いわゆる「標準仕様」のテープおこしのあり方も、少しずつ見直してきました。

それでも、ずっと変わらないものがあります。それは、「何を言ったかではなく、何を言いたかったかを追い求める」という、アドレスのテープおこしの「核」ともいえる姿勢です。

25年目の今、アドレスのメンバーたちがそこにどう取り組んでいるのか、どうぞ、私たちの足跡と次世代の展望をご覧ください。

◆四半世紀、仕事雑感

制作部・今村

25年とは四半世紀、その中で毎日人の話の録音を聴いて、前工程のおこしを校正する生活を自分も22年続けてきたとは、改めて驚きだ。

この25年といえば、ちょうど日本の「失われた○○年」に重なる。入社時は、バブル崩壊後だったがまだ成長時代の名残もあり、どんどん町や村に立派な道路や橋を建設し、近代的に整備するみたいな内容の仕事も多く、今でも趣味の旅行中「あれは斜張橋、これは何とかカルバート?」等の言葉の断片が浮かぶ。それが今は、開発より古い町並みや里山、川も自然護岸の保存といった内容に変化した。

また、当時は高齢社会の入口で、今は定着した介護保険制度を初めて導入するための議論も多く、おかげでこれは後に親の介護で実際に制度を利用する際役立った。

印象深かった仕事は、韓国人哲学者の方が幅広く日本国内外の学者を招いて、3日間缶詰の議論を年数回、10年以上にわたってされたもの。アジアや国内の名の知れないすばらしい思想家たちの営みに、まさしく「目から鱗」で視野が広がり、この成果を書店で見かけると、ひそかに感慨無量。

さて、当初から今も変わらぬ難題は機材を通した音声で、機材は高性能化したが、この業界用にはいまひとつだ。録音機材は人間の耳が無意識に捨象する空調音や映写音までしっかり拾うし、撮影機材も1カ所に設置したままでは、なかなか声の主や資料画面がクリアに撮影されない。誰か人間の目と耳なみに繊細な録音・撮影ロボットを開発してくれないかな。

◆まずは笑顔!

営業部・山田

アドレスに入社してあっという間に1年が過ぎ、2度目の夏を迎えます。

この1年の間に、多くのお客様を担当させていただき、立会録音では現場の緊張感を肌で感じながら録音作業をするなど、密度の濃い毎日を過ごしてきました。

今年、アドレスは創立25周年を迎えますが、それはこの1年で私が対応させていただいたお客様、そしてその何倍もの数のお客様に支えられてきたおかげだと感じています。これからも一日一日を積み重ねていく中で、私にまずできることは「常に笑顔で明るく」お客様と接することかなと、口角を上げるように意識しています。

お客様のご要望は十人十色、日々新しい出会いがあります。お褒めの言葉や、時には厳しいご指摘を頂くこともありましたが、一つ一つのお問い合わせを大切にし、最後にお客様が笑顔になれるように、まずは私が笑顔で皆さまと向き合いたいと思っています。これからも「こういうことってできるの?」「ここはこうできないの?」とお気軽にご相談ください。

特に大学時代に専攻していた韓国語にはとても愛着があります。韓国語テープおこし・翻訳のお問い合わせは、笑顔2割増しでお待ちしております!

◆窓口としての営業

営業部マネージャー・小池

営業部でお客様の窓口を務めて長くなりました。営業ですから、お客様と弊社のプロダクトとの交通整理が仕事です。その日々の仕事に忙殺される中、ふと自分の仕事ぶりというか、窓口の在り方というか、「営業」といったものの存在理由などに思いを馳せるときがあります。

それは、お客様の異動や退職の案内を受け取ったときです。

ご案内のメールなどで、通り一遍の異動の挨拶ではなく、中には弊社の業務が本当に助けになったことや、いつも信頼していたことなどを言い添えてくださるお客様もいらっしゃいます。あるときには「窓口のあなたが私にとってはアドレスさんの全てだから、あなたにお礼を言いたい」と言ってくださるお客様もいらっしゃいました。

そんなありがたいお別れの案内をいただくたびに淋しくも嬉しく思うのですが、それと共に、私の日頃の仕事がしっかりしているか、会社を仮にも代表して本当にお客様のためになれたのかと胸に迫るものが湧き起こってきます。営業というものは単なる交通整理だとしても、そこには信頼の重さとでも呼ぶべきものが宿っているのではないでしょうか。お別れの挨拶をいただくたびに、その重さにしっかりと応えなければという思いに立ち返らされています。

ぷくぷく通信

Puku Puku Greetings

代表取締役　中山雅美

「輝く40代」を前に、わくわくしながら創業したころに思いをはせる。ジャネーの法則はやはり正鵠を射ている。あれから瞬く間に月日が流れた。不惑ならぬ「わくわく」と言ってみたり、信長の最期・幸若舞(敦盛)を引用したのはつい最近のことに思うのだが、時は重なりついには「耳順」まで来ている。

たくさんの人と出会った。一人ではおよそなし得なかったことが、スタッフの引き出しが開く音がすると実現できてきた。たくさんの財を提供してもらった。

縁あってアドレスという筐体のなかで時を同じくしている彼らに、「あなたの全部が欲しい」と100%以上のパフォーマンスを求める。代わりに私が彼らに差し出せるものは「自己実現と社会参加の果実」だ。それは顧客からのギフトでもある。研ぎ澄まして受け止めよ。

TTLサービス(テープおこし)が蜜の味なのは100点がないことではないかと思う。もっとよくなる。お客様の思いの一歩だけでも超えて返せる可能性がそこかしこにある。だから明日もやれる。

いつも、いい裏切りのあるアドレスでいたい。たかがテープおこし、されどだ。営業部の小池も言っているが、そこの歩調が合ったお客様がずっと残ってくださっているのだろう。

25年間の私のプロセスを横で見て、足らずを補い、ときには打ち手の拙速をカバーし続けてくれた専務に、ここでお礼を言おう。そして、私の思いつきに苦笑を隠しながら、実現可能性をいつも模索して、丹念に広げたり伸ばしたりしてくれているスタッフにもお礼を言おう。私は一緒に育ってきたと思っている。

そうそう、齢90歳になる父が「わしにはできんけど、パソコンはきっとこれができると思うんや」と自叙伝や旅行記を手書きの切り貼りで持ってきては編集を迫る。あなたの勘は素晴らしいわ。と娘の私は苦笑を表に出す。

そうだ、お客様のこれがきっとできるはずという思いに寄り添おう。内に向きがちなコミュニケーションを外に求めよう。

そうすればアドレスはもっと強くなる。

私たちは
いつも顧客との水際に身を置き、
最適の提案と商品を提供し続ける努力により
自己実現と社会参加の果実を共有します。
［アドレス企業理念］

25年前の6月28日
アドレスは私と現専務の山内ともう一人かほりという女性の3名で立ち上げました(かほりちゃんはその後結婚し二児の母)。各自のPCと自家用車と文房具を持ち寄って、古い喫茶店のあとに集まって。

本当にたくさんの人に支えていただいて今日があります。

今後とも何とぞよろしくお願いします。